

平成 30 年 7 月豪雨における被災地域住民に対する 口腔衛生管理の啓発活動

三好 早苗^{1,2)} 松本 厚枝³⁾ 杉山 勝²⁾

概要：平成 30 年 7 月豪雨において広島県竹原市では、広範囲かつ長期の断水が発生し、断水の影響を受けた地域住民の口腔衛生状態の悪化が懸念された。そこで、竹原・豊田地区地域歯科衛生士会では、被災地域住民に対して、災害時の口腔衛生管理について伝える方法を検討し、ケーブルテレビを活用した口腔衛生管理に関する啓発活動と、断水地域の小学校での歯科保健指導を行った。本稿では、その活動内容について報告する。

ケーブルテレビを活用した災害時の口腔衛生管理に関する啓発活動では、公益社団法人日本歯科医師会が制作した動画「災害時の歯みがき方法」の放送を地域のケーブルテレビ局へ依頼し、断水が完全に復旧するまでの期間、延べ約 60 回放送された。さらに、断水地域の 3 つの小学校の児童を対象に、災害時の歯みがき方法を実習形式で指導し、総数 128 名の児童と 34 名の教職員が参加した。

災害における断水は長期化すると口腔衛生状態の悪化だけでなく、全身の健康にも影響を与える。しかし、災害時の口腔衛生管理の重要性について一般的にはまだ浸透しておらず、歯科界からの発信と啓蒙が必要であるとされている。災害支援として、避難所だけでなく、地域全体へ向けた口腔衛生管理の啓発は重要であり、歯科衛生士はその役割を担うことができると考える。今回報告した災害時の地域歯科保健活動が今後拡がることを期待する。

索引用語：平成 30 年 7 月豪雨，口腔衛生管理，断水，歯科衛生士，地域歯科保健活動

口腔衛生会誌 69：143-146, 2019

(受付：平成 30 年 10 月 5 日／受理：平成 31 年 1 月 31 日)

緒 言

平成 30 年 7 月 6 日、西日本を中心とした記録的な豪雨により、大規模な土砂崩れや河川の氾濫による家屋の浸水被害が発生した。広島県では水道用トンネルに土砂が流れ込んだため、広範囲で断水が発生し、多くの県民が猛暑の中、不自由な生活を強いられた。広島県竹原市（以下、当市）も死者 4 名、全壊家屋 19 件、床上・床下浸水 343 件と甚大な被害を受け、当市の約 13%にあたる 1,622 世帯が断水の被害を受けた^{*1)}。

わが国における過去の大規模災害では、断水により口腔清掃が十分に行えず口腔環境が悪化することに加えて、飲料水の不足から水分摂取を控えることや避難所生活によるストレスから唾液分泌量が低下し、自浄作用の低下や口腔乾燥が出現することなどが報告されている¹⁻³⁾。また、断水時の口腔衛生状態の悪化は全身の健

康にも影響を及ぼす。平成 7 年阪神・淡路大震災で生じた災害関連死の約 4 分の 1 が肺炎であり、その多くが誤嚥性肺炎であると推察されている³⁾。平成 23 年東日本大震災では、発災から約 1～12 週間が肺炎による死亡リスクが最も高かったと報告されている⁴⁾。これらのことより、災害関連死となる肺炎を予防するためにも、災害時の口腔衛生管理の徹底が重要な課題となっている。

当市の断水は約 1 カ月と長期に及んだため、断水の影響を受けた地域住民の口腔衛生状態の悪化が懸念された。そこで、竹原・豊田地区地域歯科衛生士会（以下、当会）では、これらの地域住民に対して、災害時の口腔衛生管理について伝える方法を検討し、ケーブルテレビを活用した口腔衛生管理に関する啓発活動と、断水地域の小学校での歯科保健指導を行ったので活動内容を報告する。

¹⁾ 竹原・豊田地区地域歯科衛生士会

²⁾ 広島大学大学院医歯薬保健学研究科口腔健康科学講座公衆口腔保健学研究室

³⁾ 広島大学大学院医歯薬保健学研究科口腔健康科学講座口腔保健管理学研究室

^{*1)} 広島県竹原市：竹原市災害情報 第 45 報，http://www.city.takehara.lg.jp/data/open/cnt/3/4164/1/300815_1800.pdf (2018 年 8 月 15 日アクセス)。